





上巻 志人の織

取てまき入るり  
くもつく遠りの  
谷るへあが込るる  
かゝの織の宮本小姫  
付とあし中の娘と小脇小  
うい迄まの付らまを  
まゝ息の纏くたり  
る小は女のいまあさとま

ふもとある  
松山在  
の佐土  
田  
くんは山中  
を頼  
る小は

次へ



山織の  
 老の書  
 かの  
 宿の  
 宿をじ

一宿亦探入体  
 岩柳のつや  
 山つ平  
 柙田  
 佐吉  
 不あて  
 旅人又  
 宿をじ



始終を... 送り  
 進ぜん...  
 山乃...  
 里ある方へ...  
 へ家内の若...  
 よう...  
 くら...  
 夫あり...  
 中我後...  
 訪ひ...

無三四  
 是を殺  
 盗人乃  
 捕人の...



つき  
もの告  
り青山  
田のあ人  
無三四

五人  
の曲者

笠を  
子さ  
の先  
さ  
さ  
さ

曲



をつれ  
り青山  
森を  
静さ

と  
て  
と  
へ

子  
切  
さ  
山  
青  
者

口

新編



※ 小倉を通り  
 一時佐々木  
 友太夫と  
 合※  
 の者  
 熱  
 頗  
 あり  
 彼者功を令免の

巻之四

□ 今迄 彼不  
 ハッある彼小  
 ことさけを  
 彼不  
 志りされども彼  
 小刀の縛り  
 ヲ目的とす 紋付  
 何りと云ふて宮本  
 今中 小大 小  
 後  
 四方山の



ものふく人を悔り  
 叶ハぬときハ偽  
 リ勝をとりん  
 ひきまう者有り  
 とせり小宮本ハ  
 穠とせり  
 友太夫  
 と申すもの  
 年以を向ける  
 今年八四十七  
 位申すより東  
 玉あまりあり宮本再ひ

塚原卜傳

木下

二人  
 累  
 写  
 才  
 八次  
 星  
 け  
 小  
 枕  
 小  
 つき



其の夜中ふらふらとある山中ふあ人あそ  
 死出救の狼をうち殺し官へ宗本を天物  
 危切の湖を伝へ修をつぐまを別を  
 別て官へ修の依家柳ありりを

波まよりの東  
 浪巻へ出後  
 舟を求  
 て四回へ

無三四

波る  
 海上小  
 鱈鱈



弥太郎

退下  
 まより  
 金比  
 らの系  
 信達中

次へ



志乃  
 志乃佐木  
 志乃柳の姫御と  
 志乃退備をさめり  
 志乃家の必へ来る山  
 志乃ちふさじける当  
 日ハ柳の御り



志乃く救まの御を  
 志乃中ふの一足  
 志乃の女貞徳さま  
 志乃小卒の如く  
 志乃が城をこへ  
 志乃岩柳めがけ  
 志乃るを身をか  
 志乃中ちちの御  
 志乃つりさぬふ  
 志乃さまの猪も  
 志乃れ死さるは

田次

志乃

志乃

志乃

長政公も出張ありを働さ

感あり姓名を

といふ小寄

柳のつらつら

佐木直

右夫と中

上長政

由一時

召抱へん

と名はま

が中儀承取



智あつと

常一は

ふびさき

とて中

久た物務

へく毒を

也悔り小おありける

岸柳少く見込遠

ひととど由給方お

之小倉の城下へ

物と戻さるる元来各







小き 装束のよきおはせを  
 将府の中少門人も教と  
 でき居を近國へ  
 とらせりまの  
 まゝ字本  
 中へ豆  
 とつけ  
 因防の  
 小器  
 おひて再び笑口  
 鉢を郎小面合

へあつべし  
 とより  
 字本大ひ  
 小視び笑口  
 小ちれまつ  
 無三四  
 げさきぬを茶  
 の小合へ紫こみ  
 佐と木友本夫  
 の挙動を探索  
 岩村おね



小き 装束のよきおはせを  
 将府の中少門人も教と  
 でき居を近國へ  
 とらせりまの  
 まゝ字本  
 中へ豆  
 とつけ  
 因防の  
 小器  
 おひて再び笑口  
 鉢を郎小面合

へあつべし  
 とより  
 字本大ひ  
 小視び笑口  
 小ちれまつ  
 無三四  
 げさきぬを茶  
 の小合へ紫こみ  
 佐と木友本夫  
 の挙動を探索  
 岩村おね



つき遠方までを運ぶ家へ入り

對父のうらみ判程とせつある十

四日漲島小おめく款付あるべしよ

るありこの時せり多くる物のふ絲

救百多う瀬島を十重二十重小糸

無三四

夜三

四重

日の出

こちへ

小袖小

中お草深の

袴栗梅色の



＊あ

めん

□

柿花

木綿の

体巻

小て

左岩村

柳

□

柳

左岩村



舟ふねにてこをあせせ換かひし向むかひ  
 一ひと札ふをまふれ洗すすいだすに乃すなはちて撲ぶつく  
 俵わたらひのあ方かた扱あひあはれ合あひあはれ  
 ぬをあせ息いき合あひあはれとし計はかりとひと  
 あらうう岸き柳やなぎ武ぶ藏ざうがまをまをま  
 とておし込こめた刀やと十字じふらけ  
 とり岸き柳やなぎがまをまをまをまをま  
 花はなのあらう返かへりし刀やのあらう岸き柳やなぎ  
 とりんを切きりし後の首くび打うちたりしる  
 仇あだのあらう父ちちのあらう墓はかへのあらうへ帰かへりしる

切付一代記 大津繪師し  
 同 硯討釋 右より多類  
 小本類品 関化堂一  
 歌からた数品

近久

地本 草紙 問屋

編輯兼 出板人

日本橋区龜井町廿五番地

澤久次郎

明治十年一月廿七日御届

定價七錢

